

学びのススメ

日々の学習を通して思うこと



国語の授業の始めに、小平メソッドによる漢字練習や前時の学習内容の復習をしているのですが、そこで「ん〜」と首をかしげたくなるような場面によく遭遇します。

《ケース1》 漢字練習編

漢字の読み書きでそれぞれ同じ問題を2回ずつ(1年生は3回も)解いています。同じ問題を繰り返しているわけですから、普通に考えて、正答率はアップするはずですよね？

漢字の学習、最終日に行う確認テスト。どれも、学習したものばかり。初めて見る漢字はありません…なのに、合格点に届かない人も少なくない状況です。間違った漢字を家庭で復習するというアフターケアはなされているのでしょうか？

ただ無意味に繰り返しても意味はありません。昨日より今日、今日より明日と得点アップや時間の短縮を目指して集中して取り組んでほしいのです。



《ケース2》 既習事項の復習編

授業の冒頭に、前の時間に学習した内容を復習する機会を設ける場合があります。

先日、1年生で文法の学習をし、次の日に復習したら、なかなか答えられないという状況がありました。満を持して、3回目。今度はほとんどの人が答えることができました。このことから、3回以上繰り返せば、学習内容の定着状況がよくなるということが言えるのではないかと思います。

また、学習した次の日に、覚えていないということは、家庭での復習が十分でないということにもなります。以前にも紹介した「マイノート」づくりに取り組むことで、その日の学習内容を確かなものにしていってください。



こうした状況は、国語の授業だけで起こっているのでしょうか？おそらく、他教科においても同様の傾向があるのではないのでしょうか。

先生たちは、皆さんに「確かな学力」を身に付けさせたいと考えています。社会に出て行く上で恥ずかしくない学力を身に付けてもらいたいのです。

どうせ同じ時間、勉強するなら、「形だけ」でなく「身に付く」学習をした方がいいに決まっていますよね。

特に3年生は、実力テストの結果も戻ってきて、課題も明らかになっているはず。この機会に、学習に対する取り組み方を振り返り、改善を加えてみましょう！